

## 企画展図録リスト

購入希望の方はタルイピアセンターまでおたずねください。

(Tel : 0584-23-3746)

タルイピアセンター歴史民俗資料館  
1994年4月発行 ¥300 B5判 40g

### 常設展示案内

「歴史とうるおいのあるまち」「大昔のくらしをたずねて」  
「稲作の始まった時代」「古墳とその時代」「古代の垂井」「中世の垂井」「竹中半兵衛一代記」「宿場のいとなみ」「庶民の旅」「近代の教育」「まつりと民俗」からなるコーナーで、垂井の歴史がコンパクトに把握できる。



第1回企画展 1994年4月発行 ¥200 B5判 35g

### 竹中家とその家臣団

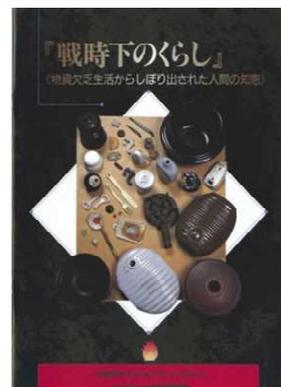
武勇はもとより、学問や詩文を愛好するなど、文武両道を重んずる竹中家の家風は、その子孫や家臣団までも代々受け継がれ、垂井の文化の礎となった。竹中半兵衛の年譜や近江隠棲についてのエピソードをまじえ、家臣団に伝わる伝世品などを紹介。



第2回企画展 1994年7月発行 ¥150 B5判 35g

### 戦時下のくらし 物資欠乏生活からしぼり出された人間の知恵

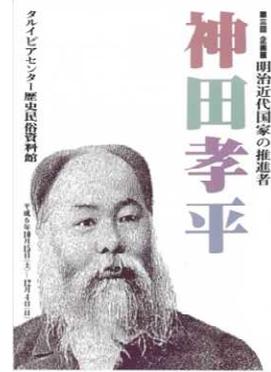
戦後50年を目前に控え、今一度、戦争の記憶を伝え、平和の大切さを再認識する契機を提供。当時の物資欠乏生活が生み出した代用品から、我々が今後、生きていくための指針を探った。



第3回企画展 1994年10月発行 ¥350 B5判 110g

### 明治近代国家の推進者 神田孝平

垂井で生まれ、日本の近代化に貢献した神田孝平。明治維新後、地租改正を建議し、兵庫県令、元老院議官、貴族院議員を歴任。明六社として世論を啓蒙する一方、数学、経済学、法学、考古学、天文学など多岐にわたる見識で、多くの著書を残した業績を紹介。



第4回企画展 1995年4月発行 ¥400 B5判 110g

### 芭蕉と垂井の俳人たち

芭蕉と交友のあった本龍寺の住職規外。芭蕉によって蒔かれた垂井俳諧の種子は、その後、美濃派獅子門道統以哉派六世大野是什坊、十五世国井化月坊らを中心に大きく開花する。彼等の筆蹟を中心に近世俳諧の魅力に迫った。



第5回企画展 1995年7月発行 ¥300 B5判 100g

### ふるさとの学校展

学制発布以前、郷土の学校教育はどのようにして開始され、どのような課題に直面し、その役割を果たしてきたのか。町内にある各小中学校の移り変わりを写真や年表をまじえて紹介。授業風景や文房具、給食からよみがえる思い出にしばし浸る時間を提供した。



第6回企画展 1995年10月発行 ¥400 B5判 70g

### 日本近代洋画の指導者 長原孝太郎

日本の心を重んじた洋画家、人間味あふれる教育者として多方面で活躍した郷土の先人、長原孝太郎の偉業を作品を中心に紹介。東京美術学校での教え子である窪田喜作や熊谷守一らの作品も公開。



第7回企画展 1996年4月発行 ¥400 B5判 110g

## 文学と垂井

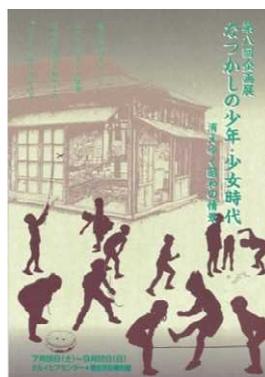
『南総里見八犬伝』『竹中丹州旅行記』『道中膝栗毛』『細雪』などの垂井を舞台にした文学作品から、それぞれの時代に作者がとらえ、多くの読者を魅了した垂井の歴史と風土を案内。



第8回企画展 1996年7月発行 ¥350 B5判 85g

## なつかしの少年・少女時代

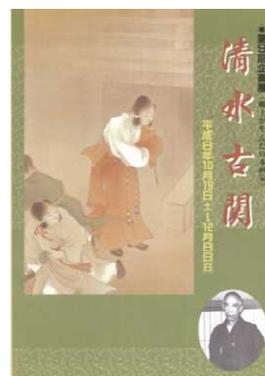
古き良き時代、昭和の子どもの素朴な遊びや暮らしを振り返る企画。室内に再現した子どもたちのドリーミングスポット「駄菓子屋」からメンコ、すごろく、カルタなど子どもの遊び道具やなつかしい雑誌、ヒーロー、アイドルのグッズなどを紹介。



第9回企画展 1996年10月発行 ¥400 B5判 60g

## 郷土が生んだ日本画家 清水古閑

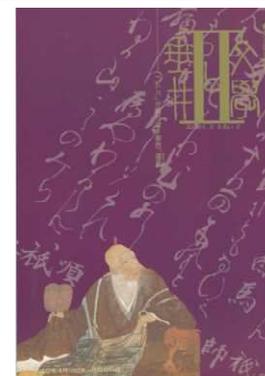
垂井が生んだ日本画家清水古閑。彼は京都で日本画の修行をしたのち、岐阜の地で画塾「古閑会」を開き、後進の育成と岐阜画壇の発展に大きく貢献した。その偉業を、彼のもとの学んだ長谷川朝風、加藤栄三の作品と併せて紹介。



第10回企画展 1997年4月発行 ¥400 B5判 110g

## 文学と垂井Ⅱ

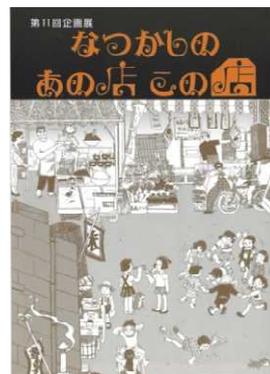
『伊勢物語』のモデルとされる在原業平や『小島のすさみ』に登場する垂井の頓宮、『表佐千句』を生んだ千句の里など中世の日本文学を軸に、垂井の風景を鑑賞。連句の形式や『小島のすさみ』原文についても精読を企てた。



第11回企画展 1997年7月発行 ¥300 B5判 85g

### なつかしのあの店この店

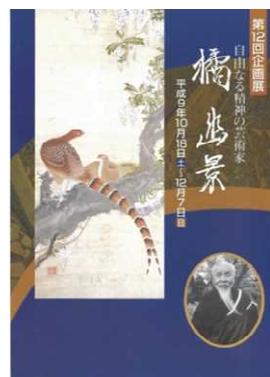
昭和30年代の商店から、あの時代の暮らしや息づかいを再現。写真館では当時の垂井のおもかげを紹介。貸本屋、たばこ屋、銭湯、豆腐屋、住まいなど企画展示室にそのままの姿を設営。



第12回企画展 1997年10月発行 ¥400 B5判 60g

### 自由なる精神の芸術家 橘幽景

日本画家橘幽景は、非凡な才能を持ちながら生家遊景寺を継いだため、中央画壇で活躍することはなかった。しかし、京都での修行時代には日本絵画共進会で3度も入賞する偉業をなしている。郷土と花鳥を愛した橘幽景の業績を作品から顕彰。



第13回企画展 1998年4月発行 ¥400 B5判 120g

### 垂井と幕末 夜明け前の垂井

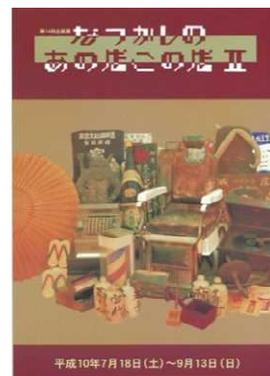
ペリー来航以来、紛糾する幕末を生き抜いた垂井の庶民の記録と、島崎藤村の著書『夜明け前』とを比較検証。また、幕府陸軍奉行として長州征伐、戊辰戦争に関わった竹中重固、偽官軍とされた赤報隊など、時代に翻弄された郷土の人々の姿を浮き彫りにした。



第14回企画展 1998年7月発行 ¥300 B5判 100g

### なつかしのあの店この店Ⅱ

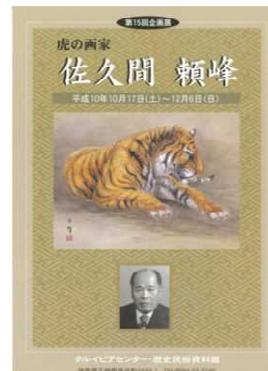
文明・文化が日ごとに移り変わっている今日。つい先頃まで身近だった道具が資料館入りする事も珍しくない。先人がどのように暮らしてきたのかを「モノ」、そしてそれらのモノと人を結びつける「店」の形態から紹介。はきもの屋、酒屋、レコード店、薬局、理容店などを再現。



第15回企画展 1998年10月発行 ¥400 B5判 65g

### 虎の画家 佐久間頼峰

虎の絵を得意とした垂井の日本画家佐久間頼峰。「日本動物画協会」の会長を務めながら、画家としても数多くの作品を残した。垂井曳軸の襖絵を描いたり、南宮大社に虎画を奉納する姿には彼の深い愛郷の念がうかがえる。残された作品群からその業績を紹介。



第16回企画展 1999年4月発行 ¥300 B5判 110g

### 宿場と街道 中山道垂井宿の周辺

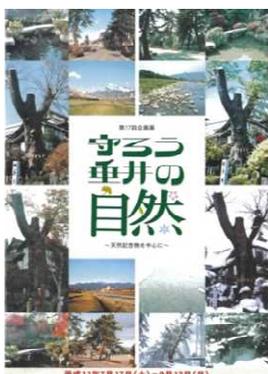
江戸時代は社会・経済状況の変化とともに、旅に出るための様々な環境が整備されていった。さらにはその主体が一般庶民へ移行し、旅文化が活発になった時代でもある。当時の様子を雄弁に語る錦絵や携行品、宿場が果たした役割も含めて分析。



第17回企画展 1999年7月発行 ¥300 B5判 75g

### 守ろう垂井の自然 天然記念物を中心に

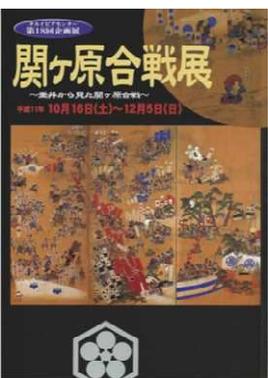
近年のめざましい経済成長のおかげで生活は便利になり、その水準も向上した。しかし、その一方で豊かな自然が失われつつあることも事実である。古来から垂井をとりまき、共存し続けてきた自然のうち、特に天然記念物にスポットをあてた。



第18回企画展 1999年10月発行 ¥500 B5判 145g

### 関ヶ原合戦 垂井から見た関ヶ原合戦

慶長5年の関ヶ原の戦いは、東軍の徳川家が権力を握る契機となったばかりでなく、戦乱の世から江戸時代という太平の世に移り変わる大きな節目でもあった。関ヶ原の戦いの意義を垂井の地という視点から見つめた。



第19回企画展 2000年4月発行 ¥300 B5判 90g

### 宿場と街道2 垂井宿を通過した人と物

海外への窓口を閉ざしていた江戸時代の日本。しかし、朝鮮通信使や琉球使節、時には象やラクダなどの動物が来日し、当時の日本人にカルチャーショックを与えた。垂井宿を通行した事物から、現代にも名残ある当時の人々の驚きを検証。



第20回企画展 2000年7月発行 ¥300 B5判 55g

### 美濃国府 地下に眠る古代都市

10年という節目を迎える美濃国府跡の発掘調査を振り返り、過去9年間の出土遺物や遺構から、現時点までに解明された美濃国府の姿を紹介する。当館が開館して以来、考古をテーマにした初の企画展。



第21回企画展 2000年10月発行 ¥400 B5判 75g

### 南宮大社 受け継がれた宝物

金山彦命を祀り、美濃一の宮として、また鉦山金属業の総本宮として全国から深い崇敬を集める南宮大社。徳川3代将軍による再建当時の造営文書など、貴重な資料が遺されている。南宮大社にまつわる歴史や受け継がれてきた宝物の一部を公開。



第22回企画展 2001年4月発行 ¥300 B5判 90g

### 奥の細道 あらたなる旅立ち

俳聖芭蕉は美濃の地に4度訪れており、3度目の来訪が「奥の細道」のさなかであった。垂井町には芭蕉が冬ごもりした本龍寺があり、芭蕉の句碑も残されている。芭蕉が没して3世紀余り、21世紀を迎えた今、新たな視点から芭蕉を見つめた。



第23回企画展 2001年7月発行 ¥300 B5判 95g

### 夏の涼 暑い夏を楽しく涼む

電化製品が普及し、快適な夏を過ごせるようになった現代。しかし、クーラーのない時代にはさまざまな知恵と工夫で、情緒あふれる涼を楽しめた。人間の5感をフルに活かした懐かしの夏の涼を偲んだ。



第24回企画展 2001年10月発行 ¥300 B5判 75g

### おらがむらの殿様 垂井地方の近世領主

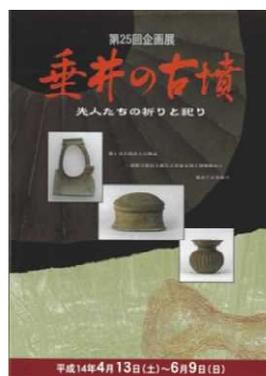
江戸期の垂井は、いくつかの村に分かれていたが、その支配関係は非常に複雑であった。江戸幕府は権力が集中するのを防ぐため、多くの領主を配置したためだが、垂井町は特にその傾向が顕著であった。当時の支配関係について細かく検証。



第25回企画展 2002年4月発行 ¥400 A4判 145g

### 垂井の古墳 先人たちの祈りと祀り

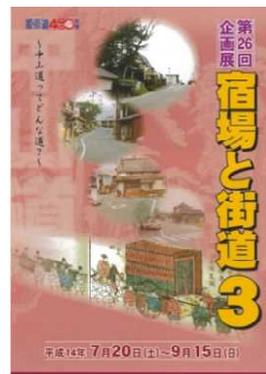
垂井町内には150基ほどの古墳が分布しており、中には親ヶ谷古墳や南大塚古墳など首長墓クラスの大型古墳も含まれる。近隣には県下最大規模の前方後円墳・昼飯大塚古墳も立地する。町内の古墳を中心に、当時の支配者層シンボルとしての古墳を考察。



第26回企画展 2002年7月発行 ¥500 A4判 110g

### 宿場と街道3 中山道ってどんな道？

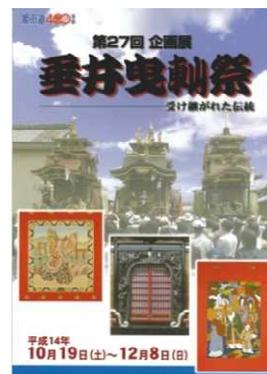
大名の参勤交代、日光例幣使のほか和宮などお姫様が將軍の夫人となるために江戸へ向かった道、中山道。中山道の宿駅制が制定されて400年目にあたり、美濃の宿場の様子や、別称「姫街道」と呼ばれる由縁となった姫君の通行をたどった。



第27回企画展 2002年10月発行 ¥500 A4判 110g

### 垂井曳軸祭 受け継がれた伝統

南北朝時代に端を発する垂井曳軸祭は、北朝方の後光厳院が垂井に頓宮した際、里人が花車を曳き回したのが始まりとされる。現在、3基の軸があり、美術工芸の粋を極めた舞台上で華麗な子供歌舞伎が演じられる。歴史あるこの祭を車山の工芸品を中心に紹介。



第28回企画展 2003年4月発行 ¥500 A4判 115g

### ふるさとの地名 資料から見る垂井の地名

近年の活発な市町村合併などで、様々な地名が変容を遂げている。垂井町にも古代からの地名がある一方、消滅した地名もある。地名に秘められた土地にまつわる云われや歴史から、先人の重要な遺産を再認識する一つの機会を講じた。



第29回企画展 2003年7月発行 ¥500 A4判 155g

### むかしと今の環境事情 変わってきた私たちの暮らし

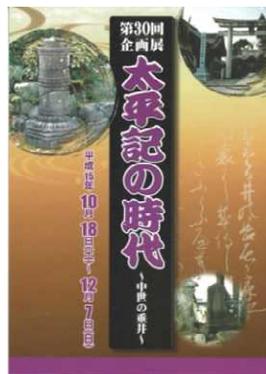
この100年間の科学の進歩は私たちの暮らしを大きく変えた。私たちは地球が育んできた豊かな自然や資源を安易に利用することにより、たくさんのモノを作り、使い、そして捨ててきた。今一度、私たちの生活を見直し、「環境にやさしい生活」を考えるきっかけを提案。



第30回企画展 2003年10月発行 ¥500 A4判 130g

### 太平記の時代 中世の垂井

開催年は、後光厳天皇が南北朝の争乱を避け、美濃の地へ行幸してから650年目。しかし、この時代を立証する資料は大変少なく、後光厳天皇の美濃行幸の理由そのものも、あまり知られていない。この謎を追究する視点から、中世の垂井を理解する一助を図る。



第 31 回企画展 2004 年 4 月発行 ¥500 A4 判 135g

### 百花繚乱 町の花「椿」と垂井ゆかりの作品から

町の花「椿」は、昭和 55 年（1980）に垂井町合併 25 周年事業として制定された。常緑で、樹齢を重ねても勢いが衰えない姿には「長寿」への願いも込められている。深い関わりのある椿を題材にした作品と共に、垂井にゆかりのある画家が描いた花々を堪能した。



第 32 回企画展 2004 年 8 月発行 ¥500 A4 判 130g

### 合併 垂井町の誕生を振り返る

垂井町が現在の町政となって 50 年。自治体の再編には、明治時代から試行錯誤が避けられなかった。「平成の大合併」と言われる年に、垂井町誕生の経緯、その後 50 年の変遷を振り返り、垂井町が歩んできた道のりを検証。



第 33 回企画展 2004 年 10 月発行 ¥800 A4 判 220g

### 岐阜県美術館所蔵 荒川豊蔵展 志野・美濃焼のころ

古窯跡を発見、陶片から桃山茶陶の復興再現に挑んだ荒川豊蔵。桃山のやきものに魅せられた陶芸家の中でも、彼は古窯発掘調査の先駆者であり、その主役でもあった。豊蔵の「技」と「心」、その全貌を岐阜県美術館所蔵品から一堂に公開する移動美術館コレクション。



第 34 回企画展 2005 年 4 月発行 ¥500 A4 判 140g

### 岐阜県博物館所蔵 歌川国芳 木曾街道六十九次

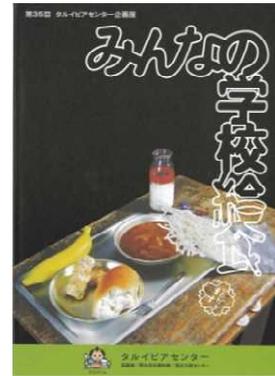
岐阜県博物館が所蔵する浮世絵の名品「歌川国芳 木曾街道六十九次」全 72 作品を、会期中 3 回に分けて紹介。洒落や本歌取りをモチーフにした各宿の場面をつぶさに鑑賞した。



第 35 回企画展 2005 年 7 月発行 ¥500 A4 判 115g

### みんなの学校給食

これまでの企画展で取り上げる事がなかった「食」について、より多くの共感が得られると予想される「学校給食」の歴史をテーマに、明治時代から平成の現在までを編年形式で紹介。献立レプリカを駆使してその雰囲気を展開。



第 36 回企画展 2005 年 10 月発行 ¥500 A4 判 192g

### 遺跡が語る古代美濃国展 関の国・美濃と都を結ぶ

古代美濃国の中でも特に不破郡と東山道沿いの寺院・官衙を取り上げ、近年の発掘調査などで出土した遺物を中心に、明らかとなった全容を公開。



第 37 回企画展 2006 年 7 月発行 ¥500 A4 判 260g

### 旅する浮世絵 広重さんツアーと、水木さんツアー

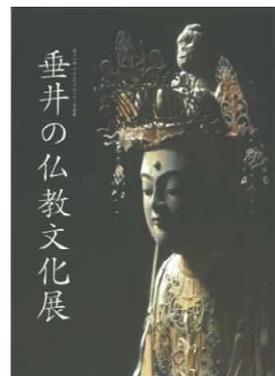
歌川広重が描いた「東海道五拾三次之内」(保永堂版)を《広重さんツアー》、これを元に水木しげるが描いた「妖怪道五十三次」を《水木さんツアー》とし、両作品を比較しながらの鑑賞を可能にした。



第 38 回企画展 2006 年 10 月発行 ¥500 A4 判 210g

### 垂井の仏教文化展 仏教の受容と展開

垂井における仏教の受容と展開は、政治情勢、国家戦略と深い関わりがあり、その事実を裏付ける美術品の多くは文化財指定を受けている。大半の美術品が指定から半世紀を経ようとする今、指定に相当する資料も合わせて紹介。



第 39 回企画展 2007 年 7 月発行 ¥500 A4 判 140g

## 非常の食 腹ガ減ッテモ戦ッタ末ニ

「戦中は食べ物で苦勞した」「終戦直後はそれ以上に食べるものがなかった」という。学童疎開の受入れをしていた垂井では、比較的、恵まれていたと考えられるが、実際は…。アンケート調査を視覚的に再現した食事情を集結。



第 40 回企画展 2007 年 10 月発行 ¥500 A4 判 140g

## 長原のブックデザイン

垂井町岩手にゆかりのある洋画家、長原孝太郎が手がけた挿絵、諷刺画、本の装丁を公開。明治期の文豪との交流やエピソードも交え、長原の人物像に一步近づける空間を設けた。



第 41 回企画展 2008 年 7 月発行 ¥500 A4 判 115g

## スポーツ選手の勝負飯

わたしたちに感動を与えてくれるスポーツ選手の大好物、ゲンかつぎメニューとは？東海圏域にゆかりのある 10 人の選手にインタビューしたエネルギー源を大垣女子短期大学学生が製作した食品模型と似顔絵で紹介。



第 42 回企画展 2008 年 10 月発行 ¥500 A4 判 350g

## 広重・英泉流 木曾街道の歩き方

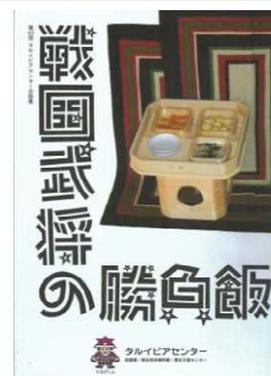
歌川広重、溪斎英泉の 2 人の絵師が描いた木曾街道(中山道)の景色全 71 画を一挙に公開。当時の風情をじっくり味わいながら江戸から大津までの場面を鑑賞。



第 43 回企画展 2009 年 7 月発行 ¥500 A4 判 140g

### 戦国武将の勝負飯

竹中半兵衛を含め、戦国時代に活躍した武将たち 11 人の食べ物にまつわるエピソードを紹介。彼らの食生活が飽食の現代に何を示すか、栄養の面からも検証を企てた。



第 44 回企画展 2009 年 10 月発行 ¥500 A4 判 150g

### ホンモノ？ニセモノ？作りモノ

タルイピアセンター開館 15 周年をふりかえり、模型やレプリカを展示する意義や、資料館としての役割を考える展示。付録として「たるぴくん爆弾」が付いている。



第 45 回企画展 2010 年 10 月発行 ¥500 A4 判 150g

### 美濃国分尼寺展 わかってきた垂井の古代

平成 16 年から 5 カ年にわたって行われた美濃国分尼寺跡発掘の成果を紹介する展示。垂井町教育委員会では、美濃国分尼寺跡とされてきた垂井町平尾地内において発掘調査を行い、国分尼寺がこの地にあったことを確認した。



第 46 回企画展 2011 年 10 月発行 ¥500 A4 判 185g

### 郷土の武将 竹中半兵衛

垂井を代表する英雄竹中半兵衛の一生を紹介する展示。竹中半兵衛は豊臣秀吉の軍師として著名だが、実像は不明な部分の多い人物である。今回の展示では、その一生を実資料に即して紹介すると同時に、現在に通じる半兵衛像が構築されていく様子も紹介する。



第 47 回企画展 2012 年 11 月発行 ¥500 A4 判 225g

### 美濃路 行き交うヒト・モノ・ドウブツ 江戸時代の国際道路

美濃路は東海道と中山道を結ぶ脇街道として栄えた。東海道や中山道は難所が多く、朝鮮通信使などの大行列や象などは比較的安全な美濃路を通った。本企画展では、江戸時代の国際道路、美濃路を通った「ヒト」や「モノ」や「ドウブツ」に焦点をあて紹介する。



第 48 回企画展 2013 年 10 月発行 ¥500 A4 判 375g

### 垂井の歴史と文化財

古くから重要な歴史上の舞台となり、様々な文化を生み出してきた垂井。それを物語るように、垂井町内には多種多様な文化財が現存している。今回の企画展は、これら国・県・町指定の文化財を紹介し、垂井の歴史に理解を深める機会となるような展示とする。



第 49 回企画展 2014 年 10 月発行 ¥500 A4 判 200g

### 戦国時代のたるい

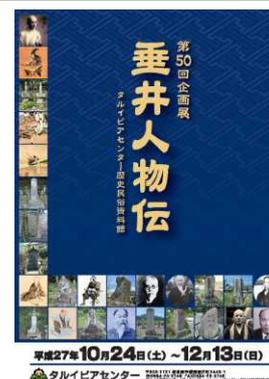
既成の支配秩序が崩壊し、様々な出自の武士達が群雄割拠した戦国時代。私たちの住むこの地域でも、「垂井の長者」と言われた長屋氏や岩手地域の岩手氏、またその岩手氏を追放し、秀吉の軍師となった竹中半兵衛を輩出した竹中氏などが乱世を生き残るべく勢力を争っていた。この企画展では、これら地域ゆかりの戦国武将の動向を追い、戦国時代における「たるい」の歴史の一端を紹介する。



第 50 回企画展 2015 年 10 月発行 ¥500 A4 判 200g

### 垂井人物伝

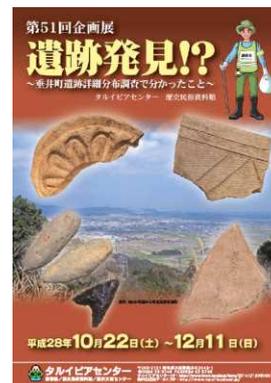
歴史豊かなまち垂井は古くから様々な歴史的人物を多く輩出している。今回の企画展では関係資料を通じて、郷土に名を残した人々を紹介するような展示とする。



第51回企画展 2016年10月発行 ¥500 A4判 125g

## 遺跡発見！？ ～垂井町遺跡詳細分布調査から分かったこと～

垂井町教育委員会では、平成24年から平成27年にかけて、町内の一部地域で、遺跡の詳細分布調査を行った。今回の企画展は、調査で採集された遺物や過去に収集され、各個人や資料館に所蔵されている遺物を展示し、調査の成果を紹介する。



第52回企画展 2017年10月発行 ¥500 A4判 200g

## 垂井と明治

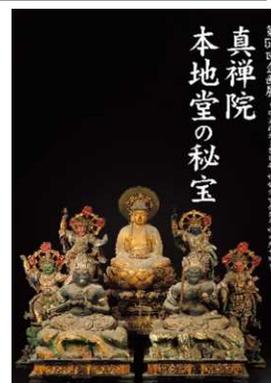
明治改元150年をむかえるにあたって、近代国家樹立を目指した日本とそれに大きく貢献した垂井の人々や、近代化という大きな転換点をむかえたこの地域の実情について、関連資料を通じて紹介する。



第53回企画展 2018年7月発行 ¥500 A4判 160g

## 真禅院 本地堂の秘宝

明治維新の混乱期に、神仏分離の荒波を乗り越えた真禅院。今回の企画展では、明治改元150年を記念し、普段本地堂内に安置されている仏像などの文化財を、一堂に展示するほか、平成27年度から行われてきた本地堂の保存修理事業についても同時に紹介する。



第54回企画展 2019年7月発行 ¥500 A4判 160g

## 南宮山攻防戦！ 垂井と関ヶ原合戦

関ヶ原合戦で、毛利軍を中心とした西軍は、約3万の軍勢で南宮山に布陣したが、合戦には参戦できず敗走した。今回の企画展では、この合戦の命運を分けたとも言える南宮山の攻防を中心に、垂井における関ヶ原合戦を紹介する。



第55回企画展 2021年1月発行 ¥500 A4判 160g

## つわもの 垂井と武者たち

垂井を含む西濃地域は、古くから多くの戦乱の舞台となってきた。今回の企画展では、古代から近世にいたる、垂井に関係した刀剣や甲冑などの武具を中心に展示し、当該地域の軍事的要衝としての性格を紹介する。南宮大社所蔵国重要文化財「太刀 銘三条」を当館初展示。



第56回企画展 2021年10月発行 ¥500 A4判 160g

## 垂井と祈りの力

人々は人知を超えた災害や疫病、死に対して無力だったが、古来から祈り・信じることで心の安寧を得て、危機を乗り越えてきた。未曾有の危機に直面している今、垂井の先人たちがどのようにそれらを克服し、未来を切り開いていったかを信仰関係資料を中心に紹介する。



第57回企画展 2023年1月発行 ¥500 A4判 315g

## 垂井の歴史と文化財Ⅱ

文化財は、我が国の長い歴史の中で生まれ、私達の祖先が、今日まで大切に守り伝えてきた国民的財産であり、後世まで伝えていくためには、地域の人々がその価値を理解し、生活の中で活用することが不可欠である。そのため、町内の文化財を知り、保護や活用を考える機会となるよう、町が指定や登録している文化財を紹介する。



第58回企画展 2023年10月発行 ¥500 A4判 180g

## 垂井と刀剣の世界

垂井町は金物の総本山南宮大社が鎮座し、幕末には表佐出身の刀匠松井永貞が活躍するなど、刀剣ゆかりの地である。また西美濃は美濃伝の基礎が築かれた地でもあり、それらこの地域ゆかりの刀剣を紹介する。



第 59 回企画展 2024 年 10 月発行 ¥500 A4 判 175g

## 垂井と刀剣の世界Ⅱ

垂井町合併 70 周年記念タレイピアセンター開館 30 周年記念  
前回に引き続き、この地域ゆかりの刀剣を展示し、その魅力を感じてもらえるような資料を紹介する。南宮大社所蔵「刀 朱銘三条宗近」、片鎌槍、真禅院所蔵「鉄塔」を初展示。

